

「徒然草図」の基礎研究-本文解釈と図様構成を中心に-

大阪芸術大学 美術学科 教授 河田 昌之

日本の三大随筆の一つとして知られている「徒然草」は、著者である兼好法師による教養に裏付けられて、兼好が興味や関心を寄せた時事的な出来事や伝聞、故実を規範とした公家社会の伝統など、多層的な社会を構築している。序段を入れて244段で構成される章段には、自然観や四季に関する独自の捉え方、さらには人生観などに現代人の感性と響きあう話や心情的に共感させられる内容を持っている。この随筆が書かれた南北朝の時代から現代までは時間的な隔りがあるものの、「徒然草」は愛読者が多く、現代人の心を捉えている。

筋の展開を持つ物語類の通例として、「徒然草」を画題とする絵画が制作された。「徒然草」の絵画を「徒然草図」と呼ぶことにすると、「徒然草図」の制作は、松永貞徳による「徒然草」の注釈書である「なぐさみ草」が慶安5年(1652)に版行されたことを契機にして広がったことが知られている。

本研究では、現存作品を熟覧し、「徒然草」章段の本文と絵画場面との関連や解釈のあり方、構図と描写などの比較を通して作品の特徴を把握し、「徒然草」を各流派の絵師が作画の素材としてどのように対応したのかなど、「徒然草図」の美術史的位置付けに向けての基礎研究を目的とした。

調査した現存作品では、選ばれた章段を絵画化する作品が大半である。章段選択は不統一であり、規定があるようには思えないが、序段をはじめ、女性美を捉えた8段、仁和寺の法師の失敗談の53段や54段などの著名な内容はほぼ絵画化される傾向にある。制作者は土佐派、住吉派、海北派、狩野派、浮世絵師や流派未詳絵師にまでおよび、作品の形態は絵巻、画冊、屏風、掛け幅に大別できる。時代は江戸時代に限られる。

事前調査を含めて対象とした作品は次のとおり。

- 1 徒然草絵巻(137段) 土佐光起筆 絹本着色 1巻 個人蔵
- 2 徒然草図屏風(53段、54段、不明章段あり) 伝住吉如慶筆 紙本着色 6曲1双 熱田神宮蔵
- 3 徒然草下絵 伝住吉如慶筆 紙本墨画淡彩 2巻 個人蔵
- 4 徒然草画帖 住吉具慶筆 絹本着色 1帖(全50章段) 延宝6年(1678) 東京国立博物館蔵

- 5 徒然草図 住吉具慶筆 絹本着色 1幅(125段) 東京国立博物館蔵
 - 6 徒然草下絵 伝住吉具慶筆 紙本墨画 96枚(全82章段) 斎宮歴史博物館蔵
 - 7 徒然草絵巻 海北友雪筆 紙本着色 20巻(全244章段) サントリー美術館蔵
 - 8 なぐさみ草絵巻(徒然草絵巻) 紙本着色 12巻(全239章段) 個人蔵
 - 9 徒然草絵巻 紙本着色 2巻(全83章段) 海の見える杜美術館蔵
 - 10 徒然草図屏風 紙本着色 6曲1双(全28章段) 米沢市上杉博物館蔵
 - 11 徒然草図屏風 紙本着色 6曲1双(全35章段) 個人蔵
 - 12 徒然草図屏風 狩野寿信筆 紙本着色 6曲1双(全8章段) 板橋区立美術館蔵
 - 13 徒然草図屏風 狩野寿信筆 紙本着色 6曲1双(全12章段) 個人蔵
 - 14 奈良絵本徒然草貼交屏風 絵・紙本着色 6曲1隻(絵・全38章段) 大阪青山歴史文学博物館
 - 15 絵入り徒然草 紙本着色 6冊(絵・全46章段) 鍋島徴古館
- 上記2~6に挙げたように伝承筆者を含めて住吉如慶、具慶を筆者とする作品が3割を占めている。15も作風から住吉派の関与が推定できる。これによって、『本朝画事(倭錦)』の住吉如慶の項に「徒然草数々」、具慶の項にも「徒然草大色帛数有」とされる記載をあらためて裏付けることができた。「徒然草図」の多くが「なぐさめ草」の挿図に準拠するなかで、住吉派の作例は53段の鼎を五徳として描くなど独自の解釈による図様が盛り込まれるなど創意を見せている点が大きな特徴であることが本文と図様の関係からわかった。

今回は作品の追跡調査を主としたため、上記の「徒然草図」を確認できたが、本文と図様の関係の考察は一部に止まった。今後は、住吉派の下絵など未調査の資料も加えて、当初の目的の達成を目指したい。